



二俣川小だより



9月号

横浜市立二俣川小学校 令和元年8月27日
発行責任者 校長 池田 千晶

想いの共有…未来を語る

池田 千晶

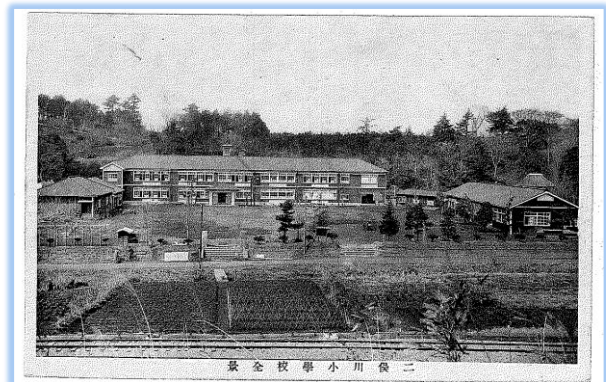
その話は、ある日の一本の電話で私に知らされました。それは、学校の校舎の建替えが決まり、この秋から基本構想の話合いが始まるということでした。

本市は昭和56年度以前に建設した学校施設について、平成29年度から建替事業を行ってきており、令和元年度に着手する学校3校のうちの一校に、二俣川小学校が選定されました。親子何代にもわたって本校出身であるという話もよく伺います。開校146年目を迎える伝統ある学校であるからこそ、10年、20年、先を見据えて、今の子どもが親となり地域の人として活躍する未来に向けてどのような学校を創っていけばいいのか、また工期の間の学校や地域の不都合の軽減のあり方など、大いに語り想いを共有したいのです。

実は、夏休み期間に、SDGs（エスディージーズ・2030年までの持続可能な開発目標案）の研修を受けてきました。今年の5月17日付けのPTAだよりの内田会長の挨拶に「持続可能なPTA」をめざしていきたいという話に出てきたものです。研修ではワークがあり、今の自分の生活環境がどのくらい地球に負荷をかけているのか数値で出てくるのです。自然の恵みと人間の消費量を天秤にかけて釣り合うようにするので、理想の数値を1とするなら、今の状況は1.7、日本に限ると2.8で生活している（数値が高いほど人間の消費量が上回っている）というのです。なんと私の生活も、2を超えていました。会場には、1相当で生活している方もおり、私は大いに反省したところです。（「診断クイズ・フットプリント」で検索すると誰でも検証できます。）

二俣川小学校の建替えにあたり、子どもにとって「安全・安心で豊かに過ごせる居場所」であること、地域の中の学校であること、そして持続可能な社会づくりふさわしいものであることなどを大切にしながら、新たな伝統を築く一歩にしていきたいと思います。

最後に伝統ある学校だからこそそのエピソードを一つ紹介します。先日、ある方から昭和5年に校舎が竣工したときの写真を送っていただきました。離れていてもこのように思いを寄せてくださること、建替えが決まったときに昭和5年の竣工式の写真を頂けた不思議なご縁に感謝いたします。



夏休みも終わり、子どもたちの元気な声が響きます。今年も、夏休みの間、飼育や水やりボランティアに携わってくださった皆さま、本当にありがとうございました。子ども同様、英気を蓄えた職員一同、9月も全力で教育活動に取り組んでまいります。ご理解・ご協力よろしく願いいたします。